

『みんなのスポーツ』3月号 (No.501) から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の3月号は「**環境保全とスポーツの持続可能性**」の特集号です。

私の視点で気づいたこと・感じた事、参考になる点を4点記載します。



- (1) 今月号テーマである活動には、私自身9年前までは年間60日位のキャンプや野外活動と同様に環境保全や環境教育に関わっていました。表紙の写真 トレイルもやっていたので、なつかしくもありすぐに目がいききました。
- (2) P18以降の事例に関しても、参考になる点が多い。例えば、山梨県北杜市の場合は協賛・企業、団体の医療・・・と連携する。ウォーキングの時にゴミ拾いをするすることで、気軽に環境問題に参加していただく。これは来月学区で行う、「歩こう会」で一部（ゴミ拾い部分）行ってみたい。北杜市は横須賀沖の東京湾で唯一の自然で無人島：猿島に、小学6年生が修学旅行の一貫でコロナ禍以前から来ていただいている、はじめは1校であったがだんだん増えてきている。児童たちは環境や自然保護に意識や感度が高いと常々感じていた。普段から地域では色々な活動があり、なるほどと思った。
- (3) **わが町の健康・体カづくり 群馬県中之条町**；「住民参加型スポーツツーリズムの町」を目指して活動を進められている。私の市でも『**スポーツを核としたまちづくり（横須賀モデル）～誰もがスポーツに親しみ、夢や選択肢がひろがるまちへ～**』に取り組んでいます。このことが認められ、スポーツ庁より東京2020大会等の後も、そのレガシーとして「スポーツ・健康まちづくり」としている地方公共団体を積極的に応援するため、設けられた制度の3年目に自治体と表彰して昨年11月に受賞しました。市町の規模は異なっているが取り組もうとする考え方は同じだと思いました。中之条町は近隣の町村とも連携されるとの事これは良い考えだと感じました。
- (4) 「巻頭言」地域におけるスポーツ周辺を見渡す の記事を読んでいて、中盤以降のスポーツをする人、みる人、ささえる人も、その結果にそれぞれの立場で一喜一憂し、その一瞬に「楽しみ」や「喜び」・・・(中略)・・・スポーツの意義があり、文化としての真の意義があり、文化の位置づけがあると思います。全く同感で、市も同じように取り組んでいると考えています。

今月号では4つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことでできることから始めて（行動）みませんか？

* 本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがあるように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。問題意識や感度を高めていくと紹介されている事例が使える場合とこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど感ずると思います。是非一緒に取り組んでいきましょう！

以上